

対話での問いかけ

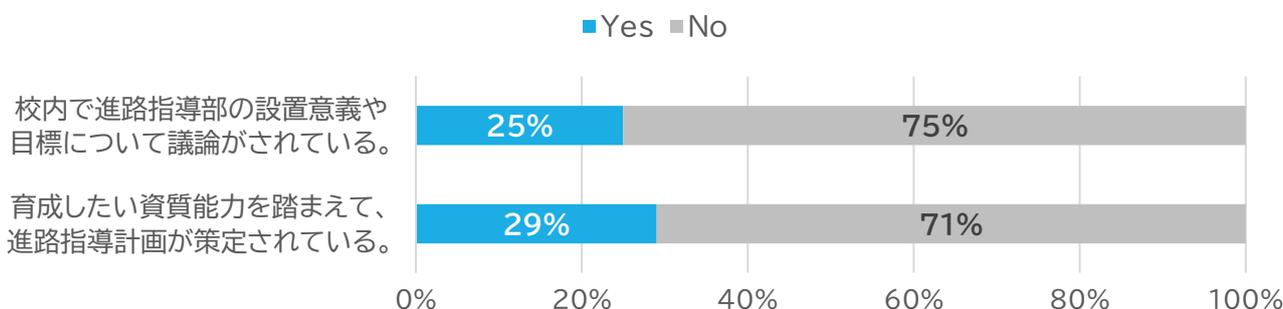
今回の対話では、「何のための進路指導か」「生徒の成長に寄与する進路指導とは何か」「何をもちて良い進路指導とするのか」といったことを考える、下記の問いかけがされました。

進路指導は、希望進路実現のため？ 育てたい生徒像を実現するため？

進路目標は、教員が提示するもの？ 生徒が決めるもの？

進路指導で目指す成果は、進路実績？ 生徒の満足？

アイスブレイク アンケート



テーマ設定 背景

前年度の進路指導総括がされ、今年度の計画が議論される時期を踏まえ、「進路指導」をテーマにしました。そもそも、「進路を指導する」とはどういうことでしょうか。また、その上で学校として進路指導部を設置する意味はなんでしょうか。参加者からは「あくまで結果でしかない進学実績をどう考えるか？」「理念はわかるが、なかなか整合性が取れない探究学習との関係をどうするか？」「保護者の期待などをどう考慮するか？」などの問題意識を持ち寄り、対話を進めました。

話題提供 - 佐々木 佑季 先生(市立札幌藻岩高校 進路指導部長) -

生徒対象の年度初めガイダンスを、実例としてお話頂きました。

- ・自分にとっての理想的な未来は一人ひとり違う。是非高校で見つけてほしい。
- ・自分の未来を考えることに、焦らなくてよい。自分と向き合う時間を大切に。
- ・学校として、色々な発見ができる機会を様々作る。是非未来を描くきっかけにしてほしい。
- ・どんな進路でも、将来は不確実と言われる時代。自分が納得できる進路決定をしてほしいし、応援したい。



対話の声

- ・学校グランドデザインの議論は進んだが、進路指導がうまく位置づいていないと感じる。(東京都)
- ・進路目標や学習目標は与えられるのではなく、自ら作り出すことが重要と思う。(大阪府)
- ・進路指導は目標を分かりやすく数値化してしまう。本当にその数値が大切なのか、考えたい。(神奈川県)
- ・合格者数ではなく、進路実現の満足度を基準にできないか。(岡山県)
- ・地方は少子化が激しく、「学校としての進路実績向上」は非現実的。新基軸が必要ではないか。(福島県)

本プロジェクトへの「ご参加希望」「校内での対話型研修会のご要望」等は、
運営事務局 ベネッセ教育総合研究所 次世代の学び研究室(nextlearning@mail.benesse.co.jp)までご連絡ください。

本プロジェクトは、新型コロナウイルスの影響により全国の学校が休校せざるをえなかったことをきっかけに、有志により発足されました。プロジェクトでは、毎週行う学校教育活動に関する対話を通じて、「学校教育の革新と、生徒の気づきと学びの最大化」を目指しています。これまでに全国約80校から主に中学校・高等学校の教員が参画しています。過去の対話履歴はこちらをクリックください。 2020 2021